

対タジキスタン共和国 国別援助方針

2012年12月

1. 援助の意義

タジキスタンは、アジアと欧州、ロシアと中東を結ぶ地政学的に重要な地域に位置している。同国の安定は、中央アジアひいてはユーラシア地域全体の安定にとって重要であり、また隣国アフガニスタンの自立と安定に向けて国際社会が取り組んでいく上でも不可欠である。1992年から1997年にかけて発生した内戦は、社会・経済インフラの荒廃と人材流出をもたらしたものの、1997年の和平協定合意以降、経済社会状況は改善し、堅調な経済成長を達成している。

一方で同国は、石油・天然ガス等のエネルギー資源に乏しく、また、長く続いた内戦の影響による経済の疲弊もあり経済成長が遅れ、所得は独立国家共同体(CIS)諸国中最も低い水準にある。上水道や保健医療をはじめとする基礎的社会サービス分野の整備も不十分であり、また地方における貧困削減も大きな課題となっている。さらに、経済インフラの老朽化・未整備は経済発展を阻害する要因となっている。

このような状況を踏まえ、タジキスタンに対してODAを通じた支援を行っていくことは、二国間関係の発展や「人間の安全保障」の観点から、また同国が抱える様々な課題の解決を後押ししつつ、その安定に貢献し、ひいては隣国アフガニスタンを含む地域全体の安定に寄与するという観点から意義がある。

2. 援助の基本方針（大目標）：持続的な経済・社会発展が可能な国づくり支援

タジキスタン政府は、同国の社会経済発展の方向性を定めた「国家開発戦略2015」や「貧困削減戦略2010-2012」において、ミレニアム開発目標(MDGs)の達成を念頭においた貧困削減を目標に掲げ、より合理的且つ効率的な経済社会開発への取組を進めている。我が国は、特に貧困層の多い地方の開発と経済インフラの整備を中心とした持続可能な発展に向けた同国の取組を支援する。

3. 重点分野（中目標）

(1) 地方開発

地方においては、安全な水の確保、劣悪な保健医療体制等の基礎的社会サービスの改善が大きな課題である。我が国は、安全で衛生的な飲料水へのアクセスを可能とする給水施設や母子保健を中心とした保健医療体制の整備を支援する。さらに、地方における雇用創出と生計安定のために、農村開発・産業振興に寄与する支援を実施する。

(2) 経済インフラ整備

国内における都市・地方間の利便性の改善、及び中央アジア諸国及びアフガニスタンとの連結性を強化し、物流改善による地域経済の活性化・安定化に貢献すべく、老朽化した道路改修とその維持管理体制の整備を中心とした運輸インフラの整備を行

う。また不安定な電力供給の改善を目的とした電力分野の支援を実施する。

4. 留意事項

(1) 貧困度が高く、アフガニスタンと国境を接するハトロン州を重点対象地域とし、劣悪な状況にある経済・社会インフラの整備に取り組み、またアフガニスタンの安定化への貢献も視野に入れた国境管理の強化や、内戦からの復興促進のための人材育成、地雷除去等の実施にも努める。

(2) 中央アジアは、貧困、環境、防災、テロ・麻薬など地域横断的な課題を抱えている。「中央アジア+日本」対話の下で日本と中央アジア地域全体との協力を進めつつ、その一環としてアフガニスタンの安定のための地域協力も促進する。

(3) ほかの地域協力枠組みの動向にも留意しつつ、中央アジア地域経済協力(CAREC)を主導するアジア開発銀行(ADB)をはじめとする国際機関など他ドナーと連携して効果的・効率的な援助の実施に努める。

(4) 支援事業の実施に際しては、現地の治安状況の把握に努め、関係者の安全対策に十分な注意を払う。

(了)

別紙： 事業展開計画